

彼女をレンタルする？

大友有人・渡沼希・高永愛美

「生まれてから一度も彼女ができたことがない。」と言う大人がいる。日本では、恋愛に対して消極的な若者、俗にいう草食系が増えている。そんな中、レンタル彼女というサービスが注目を集めている。

レンタル彼女とは、誰でも「彼女」をレンタルし、理想のデートを楽しめるサービスである。利用者はサイトなどを見てから、好みのレンタル彼女を選び、インターネットで予約する。利用者はルールさえ守れば、レンタル彼女と恋人同士のように自分の行きたい場所へデートに行くことができる。レンタル彼女という仕事を担う女性達は予め、実際のデートを想定した研修やファッションセンスを磨く指導を受け、多様な教養を身につけたエキスパート達だ。擬似デートのプラン立てなども彼女達が事前にメールなどのやり取りでサポートするので、デートに不慣れな人でも安心して楽しめるシステムとなっている。レンタル彼女をレンタルするには一時間5000～7000円の料金がかかり、交通費や食事代などデートにかかる費用も利用者が負担する。2012年に設立以来、平均で月に約200～300件の利用数を誇るレンタル彼女TOKYOでは、日頃の悩みを打ち明けたり、少年時代に味わえなかった青春のひと時を味わったりするために利用する男性や中には恋愛相談をする女性など様々な顧客層を抱えている。

今回取材に対応してくれたのは、レンタル彼女TOKYOで現役のレンタル彼女として働いているYUKI先生だ。YUKIさんは他のキャストをサポートする「人材育成コンサルタント」でもある。元々人と接する事が苦手だったYUKIさんは、積極的に人と関わられるよう鏡で笑顔の練習をしたり、本やセミナーで対話を学んだりと様々な模索をしたそうだ。こうした経験によって、YUKIさんは恋愛や日常の悩みを語る相談相手として支持を受けている。

「レンタル彼女を利用する客は『日常に足りない何か』を求めている。」と、YUKIさんは言う。レンタル彼女は相手の気持ちを敏感に感じ取り、客が望み憧れていた空間を作り上げることで、その「何か」を満たしてあげることが大切だ。また客のなかには女性と関わる事が少なく、女性とのコミュニケーションが苦手な人も多い。レンタル彼女は人付き合いが苦手な男性の増加に目を付け、そんな男性のコミュニケーションの練習の機会になれば、と作られた。そういった人とデートするレンタル彼女という仕事には、高度なコミュニケーション能力、相手に対する関心、気遣いが必要とされる。

しかしレンタル彼女に応募してくる女性が皆高いコミュニケーション能力を持っているわけではない。実際にレンタル彼女として働いている女の子の中には、人付き合いが苦手

で服装も地味だった子が沢山いる、とYUKIさんは言う。現在レンタル彼女 TOKYO で人気1位を誇る水城咲さんも、そんな女の子の一人だった。それでも研修を受けお客さんを相手に経験を積んでいくうちにレンタル彼女としても一人の人間としても成長していくそうだ。当初人気がなかった彼女も今では1番人気のレンタル彼女となった。

レンタル彼女には、単なるビジネスではなく、客とレンタル彼女として働く女性の成長を助けようという狙いがあるのだ。

【編集後記】

興味本位でレンタル彼女について書くことを決め取材をしましたが、その斬新なシステムには驚かされました。人と人の繋がりが希薄になっている現代だからこそ、1対1のコミュニケーションを大切にするレンタル彼女が必要とされるのではないかと思いました。

大友 有人

初めてレンタル彼女の存在を知った時は、”意外と身近なのに斬新”なサービスに興味を持ちました。”会いに行けるアイドル”の熱も未だ消えない今、こういった企業の登場は今後増えるのでは、と思います。是非この記事をきっかけに革新的な日本の新しい企業の一面に、目を向けて見てください！

高永 愛実

なんともきわどい内容でドキドキな面もありましたが、無事書き終えることができホッとしています。普段なかなか覗く機会のない世界なので、学んだことも多かったです。この経験を次回に活かしていけるようにがんばります。

渡沼 希